

平成20年度（第44期）事業報告

◇ 募 金 事 業 335件 4,710万円

平成20年度の寄付金は、5,200万円の予算額に対して実績額4,710万円で、予算比489万円の減少となった。寄付総件数は335件（うち支社、支局145件）で、前年度比35件の減。景気的大幅な減速もあり、予算を下回った。

◇ 貸 付 事 業 6,000万円

社会福祉法人に対する設備資金の貸し付けは、予備費を含めた予算額1億4,000万円に対し、札幌市の認可保育所新設などに2件、計6,000万円を貸し付けた。

貸付利率は1.7%。

償還金は9,232万円ではほぼ予算通り。今年度の完済件数は2件、新規貸付は2件で、今年度末の貸付け件数は72件で貸付金残額は8億5,580万円となっている。

また貸付金利息収入は、1,916万円とほぼ予算通りだった。

◇ 助 成 事 業 6,285万円

平成20年度の助成事業は、歳末たすけあい運動、奨学金、道新ボランティア奨励賞、小規模授産施設助成、一般公募助成などを行った。

予算額6,430万円に対し、実績額は145万円の減。

1. 歳末たすけあい助成 1,200万円

12月1日から26日まで、歳末たすけあい募金を通常の寄付と並行して受け付けた。この募金に基金からの拠出金を加えて1,200万円を予算通り北海道共同募金会に助成した。このうち700万円は札幌交響楽団に指定寄付し、「道新福祉コンサート」を札幌、網走、根室、帯広など8カ所の特別養護老人ホーム、介護老人保健施設などで開催した。また、札幌市の協力を得て、母子家庭や高齢者などを札幌コンサート（札幌・キタラホール）に招待する事業も例年通り実施。計5回（各回42名）行われ、生のコンサートを楽しんでもらった。残る500万円は、同募金会で他からの募金も合わせて低所得世帯への見舞い金や高齢者のための在宅サービス事業などへ配分された。

2. 奨学金助成 2,220万円

母子家庭や児童養護施設など各種福祉施設から高校、高等養護学校などに通う高校生に対する奨学金は、予算通り2,220万円を上、下期に分けて支給した。例年通り北海道新聞社から700万円の補助を受けている。

支給は、1名につき年額6万円を北海道母子寡婦福祉連合会、札幌市母子寡婦福祉連合会、北海道児童養護施設協議会、北海道身体障害者福祉協会の4団体を窓口にも、合計370名に行った。

3. 道新ボランティア奨励賞

283万円

当基金と北海道新聞事業局、北海道社会福祉協議会（以下道社協）が主催し、道内で地道な福祉活動を続けているボランティア団体・グループを表彰している。1977年（昭和52年）に創設された賞で、今回が32回目。

5月16日朝刊に社告を掲載、同時に道内の各市町村、市町村社会福祉協議会などに推薦要領を送り、6月20日に締め切った。応募は一般奨励賞79件（前期より1件増）で、特別奨励賞の応募はなかった。予備審査を経て9月10日に審査会を開き、一般奨励賞（奨励金は25万円）を10団体・グループに贈ることを決定した。

表彰式は10月19日に苫小牧市で開催された「ボランティア愛ランド北海道2008」の席上で行われ、表彰楯と奨励金を贈った。予算額370万円に対し86万円の減。

第32回までの累計の受賞団体は305団体・グループ、奨励金累計額は8,225万円となっている。

4. 小規模授産施設への各種費用助成

597万円

1985年（昭和60年）に助成制度が創設され、今回が24回目。道新（事業局）、道社協の協力を得て、小規模通所授産施設が行っている生産活動の器具備品整備に50万円、研修参加に10万円、法人格取得は社会福祉法人30万円、NPO法人10万円をそれぞれ限度に助成している。

4月28日朝刊に募集要項を掲載、小規模通所授産施設や市町村社協などに要項を送り、5月26日に募集を締め切った。器具備品整備に44件、研修参加に4件の計48件（助成申請総額は1,318万円）の応募があった。7月14日の道社協の授産事業振興センター運営委員会の予備審査を経て、7月29日の基金評議員会で21施設への助成を決定した。予算額600万円に対し3万円の減。

5. 一般公募助成

1,644万円

道新（事業局）、道社協の協力を得て、福祉人材育成事業、NPO法人支援、福祉を通じた地域のまち起こし活動支援など、道新社会福祉基金の名にふさわしい活動奨励策として取組んでいる。各種福祉活動、ボランティア活動を行う団体、グループから応募を受け、1件50万円を限度に助成している。今期は前期より400万円多い1,700万円の予算で実施した。

小規模授産施設助成と同時に4月28日に受け付けを開始、全道から125件（申請総額4,899万円）の応募があり、5月26日に募集を締め切った。予備審査を経て、7月29日の評議員会で41件の助成団体・グループを決定した（決定後、1団体が辞退）。

予算額1,700万円に対し、辞退した団体もあり55万円の減。

6. その他の助成事業

340万円

北海道交通遺児の会育英奨学金（50万円）、北海道いのちの電話研修事業（20万円）、ふきのとう文庫布の本製作事業（10万円）など予定された12件の事業へ助成した。予算通りだった。

◇ 道新みらい君奨学金

252万円

当基金の創立40周年記念事業として平成17年度に創設された。道内の私立高校生を対象に、家計を支える人の突然の解雇や死亡などで経済的に通学を続けることが困難になった場合に、緊急的に奨学金を贈る制度。月額3万円を原則1年間、支給している。景気が急減速した影響もあり、年度後半に問い合わせや申し込みが相次いだ。

結局、今期は8校、12名の生徒に支給した。予算額720万円に対して実績額は252万円で468万円の減。

◇ 情報管理システム開発

17万円

寄付金、貸付金、助成金のデータ管理のためのシステムを構築しており、システムの年間保守管理費用を支払った。予算額25万円に対して7万円の減。

◇ 事業運営費

185万円

社会福祉の啓発と当基金事業PRの費用で、新聞などに広告を掲載している。今期も年間を通じて道新、道新スポーツに広告を掲載したほか、道新ポケットブックなどにも広告を掲載した。予算額200万円に対し15万円の減。

◇ 基金運営費

1,126万円

人件費、福利厚生費、会議費、消耗品費、諸費など事務局を運営するための経費。予算額1,230万円に対して、人件費、福利厚生費などが予算を下回ったことにより103万円の減。